

令和3年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

評価 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない 2: やや不十分 1: 不十分

*「評価項目」の()数字は、今年度重点目標の項目番号

領域	対象	R03 評価項目	R03 評価の観点	本年度の成果と課題	評価	具体的な改善策・向上策		
教育活動	教育課程	(1)	新学習指導要領に基づいた教育課程の編成	生徒の意欲を引き出し、進路実現につながるよう新教育課程を編成することができたか。	昨年作成した新教育課程を点検し、生徒の実態に合わせて一部修正した。新しい学習評価の方法を検討し、令和4年度入学生用の新シラバスを作成した。	4	新教育課程を、次年度から実際運用する中で見えてくる課題を洗い出し、シラバスを修正する。	
		(1) (2) (3)	基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。朝学習を通して基礎学力の定着が図られたか。	教材の工夫や朝学習の取組みにより、基礎力診断テストで成績が上昇する生徒の割合が増えた。学習習慣が確立していない生徒に対し、学習に対するモチベーションをどのように高めるかが課題。	4	朝学習で基礎的な内容を繰り返し行う。また、学力の向上と進路実現の繋がりを意識させ、学習の中で成功体験を積み重ねることで意欲喚起を図る。	
	授業評価による授業改善							アンケートで、「授業がわかりやすい」「質問に丁寧に応じる」といった声を多数得た。思考力、判断力、表現力を伸ばすため、体験学習や話し合いを効果的に取り入れていくことが課題。
	進路指導	(1) (2) (3)	3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしているか。	各学年時期を見て必要な情報を生徒に渡し、ガイダンス等で進路の状況について確認できた。コロナの影響で中止となった行事の代替をどうするか、という課題がある。	4	模試等年間計画に入れられるものは、なるべく入れていきたい。また、コロナに左右されないような学校内で実施できる進路指導について、考える必要がある。	
								進路希望の実現と職業理解の促進
	生徒指導	(1) (2) (4)	基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	様々な問題に対して、担任・学年・管理職とともに、連携を取り合い、チームで対応することができた。交通事故などの報告窓口が、曖昧な部分があったため、次年度以降統一していきたい。	4	例年に比べて問題行動は減少した。一方指導までには至らなかったものの、SNS関連でトラブルが増加傾向にある。BYODの本格手になら導入と平行して、ルール作りを検討していく必要がある。	
								生徒相談体制の充実
	生徒会	(3)	自主的、主体的に行動する生徒の育成	・生徒の主体的な活動を支援し、主体的・対話的な学びによる自己肯定感を育てることができたか。 ・安全に配慮し、活動することができたか。	KAWAトーク(地域交流会)を2回実施し梓川高校から地域へ発信する機会をつくることができた。コロナ禍で制約が多かったが、安全対策をして臨機応変に対応し活動することができた。集中ミーティング等生徒が主体的に運営する姿が多く見られるようになった。	4	感染症予防対策に一層の配慮をしつつ、集会やイベントの運営方法や内容について検討していきたい。文化祭では昨年度に引き続き、探求学習の発表を行うことができた。今後も、「総合的な探求の時間」の中間発表的要素を盛り込むことができるよう取り組んでいく	
	学校運営	組織運営	(1) (2) (3) (4)	学校評価の充実	学校評価を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	今年度から、保護者アンケートもオンラインで実施し、回答しやすくなった。昨年度のアンケート結果を受け、今年度、クラブ活動費を補助する仕組みづくりをし、改善を図ることができた。	4	生徒に実施する学校内外のアンケートの数が増え、重複する内容もある。アンケート項目の見直しを図り、効率化を図る。
			情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	大事な通知については、紙の配布に加え、メール配信するようにした。コロナ禍の中、PTA参加の行事がほとんど中止となり、学校の状況を直接見てもらう機会が減少した。	3	引き続き、メール配信を利用して、情報が確実に保護者に伝わるようにする。コロナの収束後は、行事を復活させ、保護者に学校の活動に関わってもらう機会を作る。	
		地域連携	(1) (2) (3) (4)	地域の声を教育活動に生かす	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。	学校評議員、地域モニターの方に来校いただき、アドバイスや励ましの言葉をもらうことができた。	4	学校評議員会の前に、資料を配付し、理解を深めていただいたうえでアドバイスをいただけるようにする。
			地域と連携した教育	地域と連携した学習や体験活動を通して、生徒の学習意欲を引き出しているか。	地域に出かけ、また、講師を招き、地域の歴史、産業、防災、福祉について学んだ。松本市選管との連携で、10月の衆院選に向け、3年生が主権者教育を実施する他、2年生が市議会議員と2月に交流した。	5	今年度実践できた主権者教育を次年度も継続して実施できるようにする。学校評議員会で提案いただいた内容を本校の教育活動に取り入れられるように計画する。	
校内研修	(1) (2) (3) (4)	授業・学習指導法の改善	ICTの活用やオンライン従業等、新たな学びについて研修を行い、教科指導で実際活用することができたか。	一人一台端末による学びが導入されることを受け、校内職員研修を定期的に行った。コロナ禍により、オンラインによる授業を9月と2月に行い、経験を積み、授業のスキルも上げることができた。	4	教室の授業においてもICTの活用が進むよう、引き続き、授業実践を共有できるよう校内研修を行う他、公開授業を利用して、他校の授業実践についても積極的に学ぶようにする。		
							生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。